

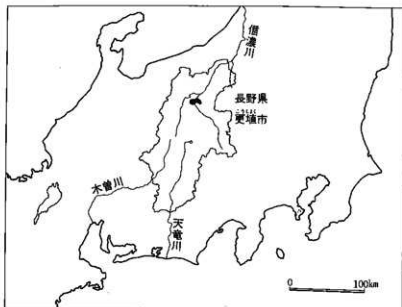
長野県更埴市

白石・石原A・峯遺跡

—県営工業団地建設に伴う確認調査報告書—

1988

更埴市教育委員会
更埴市遺跡調査会



目次

目次 例言	
I 調査の概要	1
II 調査の経過	2
III 白石遺跡	4
IV 石原A遺跡	5
V 峯遺跡	6
図 版	7

例言

- 1 本書は、昭和62年11月16日から11月26日の間に実施した八幡工業団地計画地内の遺跡範囲確認調査報告書である。
- 2 本書の編集及び執筆は、調査担当者である佐藤信之が行った。
- 3 本調査の遺物、実測図、写真等の資料はすべて更埴市教育委員会に保管されている。
- 4 本調査関係の資料には、八幡を略して“YWT87シ”と表記した。



I 調査の概要

- 1 発掘調査委託者 更埴市 (担当 商工観光課)
- 2 発掘調査受託者 更埴市遺跡調査会
- 3 発掘調査実施者 更埴市教育委員会・更埴市遺跡調査会
- 4 発掘調査場所以及
び土地の所有者 更埴市大字八幡字白石・石原A・峯
更埴市八幡1418 北澤鶴雄 他13名
- 5 発掘調査遺跡名 白石遺跡(新発見)・石原A遺跡(市台帳No120)・峯遺跡(市台帳No103)
- 6 調査の目的 公共事業 工業団地建設に先立つ当該遺跡の範囲確認調査
- 7 調査期間 昭和62年11月16日～同年11月26日
- 8 調査面積 60㎡以上
- 9 調査方法 任意に設定したトレンチによる範囲確認調査
- 10 調査費用 費用総額500,000円 (全額委託者負担)
- 11 調査会の構成
 - 会 長 安藤 敏 更埴市教育委員会教育長
 - 理 事 田沢佑一 更埴市議会議員
佐藤藤次 更埴市教育委員会教育委員長
寺沢脩七 更埴市区長会長
相沢正幸 更埴市文化財保護審議会議長
寺沢政男 更埴市役所総務課長
 - 監 事 武井隆義 更埴市社会教育委員会委員長
関 京子 更埴市役所会計課長
 - 幹 事 武井豊茂 更埴市教育委員会社会教育課長
山崎文夫 更埴市教育委員会社会教育係長
矢島宏雄 更埴市教育委員会社会教育主事
佐藤信之 更埴市教育委員会社会教育課主事
- 12 調査団の構成
 - 団 長 安藤 敏
 - 調査担当者 佐藤信之
 - 調査参加者 市川睦雄 久保啓子 小林芳白 坂口城子 高野貞子 羽場静子 村山 豊
 - 整理参加者 田中宣子
 - 事務局 武井豊茂 山崎文夫 矢島宏雄 佐藤信之 田中啓子 山根洋子(社会教育課)

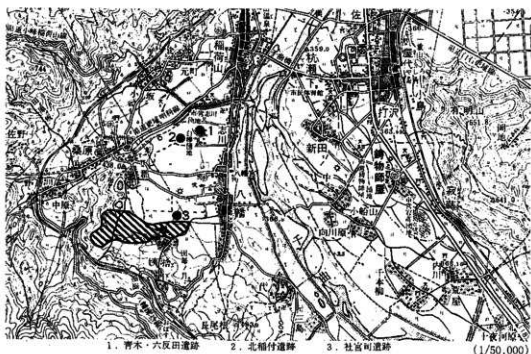


II 調査の経過

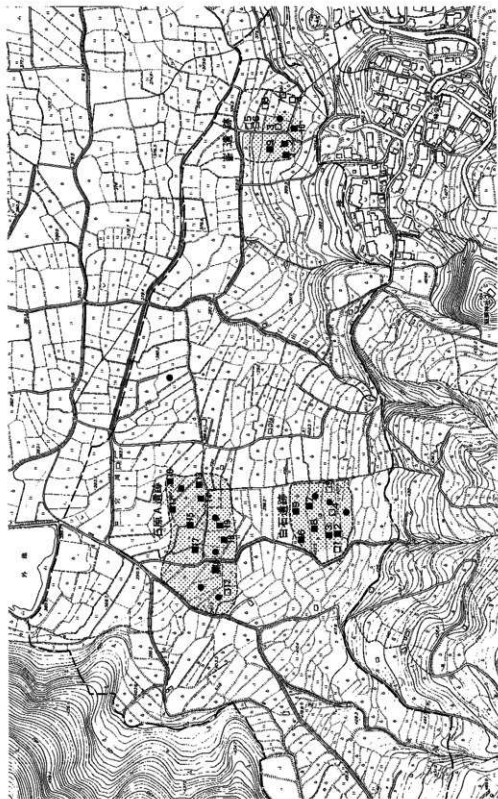
八幡工業団地の開発が本格化し、昭和61年度に実施した試掘で遺跡が存在すると想定された部分の、さらに詳細な遺跡範囲、内容を確認する調査を実施するよう、10月19日、更埴市長より市遺跡調査会に依頼があった。市遺跡調査会では厩代高等学校プール等建設に伴う発掘調査が11月まで予定されているため、この調査が終了した後実施するよう調査計画書を作成した。この計画書により11月7日、更埴市と市遺跡調査会の間に、発掘調査業務の委託契約が締結された。11月14日に発掘調査の通知を文化庁長官に提出し、11月16日より手掘りにより発掘調査を開始した。調査にあたっては、市遺跡調査会が発掘調査団を編成し実施した。地主の方々の御協力により、当初の目的を果たし、11月26日、無事調査を終了することができた。

経過

10月19日	更埴市長より調査依頼
11月7日	発掘調査委託契約の締結
11月14日	98条の提出
11月16日	峯遺跡より調査開始
11月18日	県道部分の試掘調査を 並行して2日間実施
11月20日	白石遺跡の調査開始
11月21日	6トレンチより遺構らしきもの検出
11月24日	石原A遺跡へ移る
11月26日	現場における調査完了
	発掘調査日数 8日
	延べ作業員数 50人



第1図 遺跡位置図



0 100 200 m
(1/50,000)

■ 今回のトンナチで運出土があった地点

● 61年度の調査で運出土のあったトレンチ

□ 中田のトレンチ

○ 4月運出の調査結果が確認された区域

■ 現在が確認された区域

▨ 運出と調査されていない区域

▩ 運出と調査された区域

第2図 運新金体区

III 白石遺跡

昨年度の調査で、遺跡の存在が初めて確認された遺跡である。遺跡と想定された部分に9ヶ所のトレンチ(1~9トレンチ)を設定し確認した。

1・2・3トレンチ 耕作土下には開田時に盛られたと思われる褐色の砂礫土が40~50cmあり、その下は暗茶褐色の礫を含んだ粘土層が部分的に見られ、厚さ10cm前後の暗灰色土層となる。共に僅かに遺物が出土する。さらにその下は泥炭に近い灰黒色の粘質土層が厚く堆積している。

1トレンチを除き遺物の出土はあったが、小片であり図示できるものはない。破片から判断して奈良~平安時代の遺物と思われる。

5・6トレンチ 耕作土の下には盛土と思われる暗褐色土あるいは暗茶褐色の砂礫土が60cmほどあり、その下には厚さ20cmほどの黒褐色土があり、遺物が出土している。特に6トレンチでは柱穴とも考えられる掘り込みが、黄褐色砂礫層に対して見られ、この黒褐色土が遺物包含層になるとと思われる。

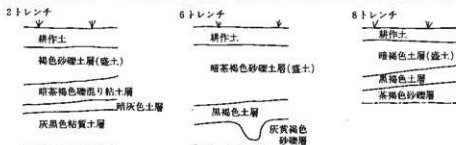
出土遺物は小破片が多い。6トレンチより出土した6の土師器壺は、球形の胴部からくの字状に口縁部が外反するもので、古墳時代の特徴を表わしている。

7・8・9トレンチ 耕作土下には10~40cmの厚さに暗褐色土が盛られており、その下は6トレンチ同様の黒褐色土が、北に強く傾斜しながら10~20cmほど堆積している。この下は地山層になるとと思われる。

黒褐色土層より僅かな遺物が出土している。7は7トレンチより出土した灰雑陶器の底部破片である。

まとめ

昨年度の調査で遺跡と想定した部分より、やや西側が狭くなったが、他はほとんど変わっていない。急傾斜地であるため、開田時の破壊がかなり進んでいる。遺物の出土は9ヶ所のトレンチの内、7ヶ所で出土したが、いずれも小片が僅かに出土している程度である。ただ6トレンチでは遺構とも思われる落込みが見られ、住居址等の存在も考えている。調査は6トレンチを中心として遺跡を横断するトレンチを設定し、遺構の検出があった部分から進める方法が考えられる。



第3図 白石遺跡土層断面図(1/40)

IV 石原A遺跡

昨年度の試掘調査により、遺跡が存在すると想定された部分に10ヶ所のトレンチ(10～19トレンチ)を設定し、さらに詳細な広がりを確認した。

10・11・12・13トレンチ 耕作土下60cmほどまでは暗褐色の砂礫層が見られ、その下には5cmほどの灰色を帯びた粘土層が見られる。さらにその下部は褐色を帯びた粘土あるいは砂礫層が20～40cmほどあり、泥炭ともいえる灰黒色の粘質砂層となる。ただ10トレンチでは灰色の粘土層の下に黒褐色の遺構とも考えられる掘り込みがある。

12トレンチを除き各トレンチより、奈良から平安時代と思われる遺物が出土しているが、小片であり図示できなかった。

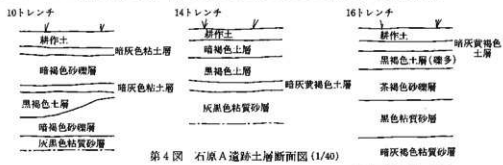
14・15・17・18・19トレンチ 耕作土の下には暗褐色土が20cm、黒褐色土が30cmほどそれぞれ堆積しており、共に僅かながら遺物が出土している。14トレンチではさらに暗灰黄褐色土層があり、そこからも数点の小破片が出土している。表土下70cmほどから下は、10から13トレンチ最下層同様の黒色土が堆積している。

出土遺物は、奈良から平安時代のものが大半を占めている。土壌が酸性のためか、土師器はほとんど原形をとどめていない。1は15トレンチより出土した土師器坏である。2・3は14トレンチ、4・5は18トレンチより出土した須恵器坏で、奈良時代から平安時代初めの特徴をよく示している。

16トレンチ 耕作土下には厚さ10cmほどの暗灰黄褐色土層をはさんで20cmほどの黒褐色土層があり、その下は茶褐色砂礫層が40cm、黒色粘質砂層が40cmほど堆積しており、それぞれ僅かな遺物が出土している。表土下120cmほどからは他の土層同様、泥炭に近い土層となる。

まとめ

石原A遺跡は、昨年の調査により遺跡と想定された地区のほぼ全域より遺物が出土しており、遺跡の範囲に変わりはない。ただ遺物の出土は僅かであり、特に集中する地点がなく、また出土する土層も一定していないことから、遺構の密度は低いと思われる。したがって調査は遺跡内を横断するトレンチを設定し、遺構の存在を確認して進めることが望ましいと思われる。



第4図 石原A遺跡土層断面図(1/40)

V 峯遺跡

昨年度の調査により、遺跡と想定された部分に9ヶ所のトレンチ（峯1～9トレンチ）を設定し、さらに詳細な分布を確認した。

1・2・8・10トレンチ 耕作土及び表土である暗褐色土が40cmほど堆積しており、その下には遺物包含層と思われる黒褐色土が、20～30cmほど堆積しており、小さな土器片が含まれていた。2トレンチではこの土層が急激に落ち込んでおり、遺構が存在するかもしれない。さらにその下は地山層である黄褐色砂礫層が厚く堆積しており、遺物の出土は認められない。

出土遺物は小破片が多かったが、図示できた遺物が僅かにあった。8・9は1トレンチより出土した遺物で、8は器台あるいは高坏、9は甕の底部破片で古墳時代の土器の特徴を表わしている。10～12は10トレンチより出土した遺物で、10・11は須恵器坏、12は須恵器坏蓋で奈良時代の遺物と思われる。

4トレンチ 地表面には鉄分の沈殿層があり、その下には5cmほどの灰黄褐色砂礫層があって、地山である黄褐色砂礫層となる。開田の際に上部が削りとられたものと思われる。

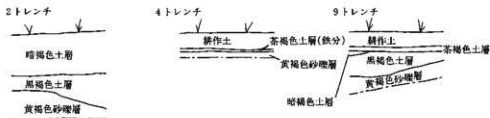
5・6・9トレンチ 地表面には黒褐色土が20cmほど堆積しており、かなりの角度をもって北へと傾斜している。さらにその下は黄褐色砂礫層の地山となっている。黒褐色土は1トレンチなどで遺物包含層と考えられた土層と同じであるが、遺物の出土はほとんどなかった。

まとめ

当初遺跡と考えていた地域より、北側がかなり狭くなることが確認された。遺物の出土は調査区の南側に設定したトレンチからで、その出土量も少ない。遺構の存在も明確にできなかったが、遺物の出土する土層が特定できることから、存在する可能性はあるものの密度は低いと思われる。したがって調査は、他の遺跡同様トレンチを設定し、遺構の検出があった部分を広げていく調査方法が考えられる。

参考文献

『更埴市合科地区・八幡地区工業団地計画地試掘調査報告書』 更埴市教育委員会 1987年



第5図 峯遺跡土層断面図 (1/40)



八幡工業団地計画地航空写真



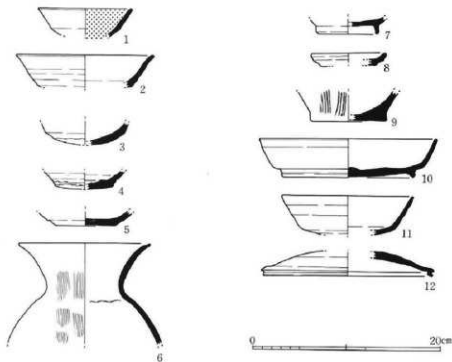
石原A遺跡15トレンチ



白石遺跡6トレンチ遺物出土状態

図版 2

トレンチ出土遺物



白石・石原A・峯遺跡 —県営工業団地建設に伴う確認調査報告書—

発行日 昭和63年3月31日
編 集 更埴市遺跡調査会
発 行 更埴市教育委員会
〒387 長野県更埴市大字杭瀬下762-2番地
TEL (0262) 73-2791
印 刷 ほおずき書籍株式会社
〒380 長野市中越293
TEL (0262) 44-0235
